

第1章 古代から合併まで

上野国勢多郡荒牧村(明治12年編集 郡村誌より)

区 域 北方は関根村の耕地に接し東北は日輪寺に、東は青柳に、南は上小出に、西は群馬郡川原島新田に隣りし古利根の河原を境とす。

幅 員 東西16町10間4尺、南北11町1間4尺、面積42万5千390坪。

管 轄 天正18年より寛永12年まで46年平岩主計頭親吉既橋在城領分、寛永12年より寛延2年まで115年酒井雅楽頭既橋在城領分、寛延2年より明治2年まで120年松平大和守既橋在城領分、明和4年武蔵国川越に移在城領主庄如前慶応2年前橋へ帰城領主如前、明治2年藩知事。

里 程 群馬県庁より北方1里12町23間。

地 勢 平坦にして東に桃木川、広瀬川、延命寺川は村の中央を南流し西に古利根川を帶う。人家村の中央多居す。運輸至て便且薪たる炭欠。

税 地 田28町1反8畝10歩、畑39町6反2畝12歩、宅地6町6反2畝8歩、境内1反4畝5歩、堂地2畝24歩、芝生地1反28歩、芝生1町7反12歩、山林22町1反7畝11歩、竹林9反7歩、総計99町4反8畝27歩。

字 台所南、台所、台所北、黒岩、傘松、セキ下、源斉、^{ウリ}爪畑、西窪、萩林北、

萩林、船戸西、宿前、下宿、上宿、宿後、伊勢東中反保、八幡前、船戸、小出後、船戸前、船戸東、自性寺前、日輪寺前、欠田、天神後、東原、青柳西。

馬 牡馬25頭。

川 広瀬川、桃木川、兵吉川、源斉セキ、延命寺川、縄後セキの6条あり。

林 台所林は官有地に属する、(現在の団地)本村の西にあり東西1町40間、南北5町、反別8町3反1畝15歩、字台所東の西より字台所北に面列す、松木多し囲3尺囲りより1尺囲りまで木数2,500本。

西林は民有に属する、(現在の群大校舎)本村の西北の方3町50間にあり東西2町南北10町反別15町2反歩、字萩林より起り台所東の東の部を字黒岩へ連り黒岩より北の方字傘松北の方は関根村界に至り字傘松より東の方、字セキ下へ連る、セキ下より字源斉、字^{ウリ}爪畑に南列す。字爪畑の中央にて止まる、松多し。

東林は民有に属する、(現在の南橋町)本村の真東の方6町20間にあり東西2町30間、南北2町40間、反別6町1反歩、字天神後の東の部より北の方に連り字東原字青柳西に面列す、東南

は青柳村に界し西北は本村の耕地に接す、樅木多し、大木なし。

道路 清水越往還、村の南上小出村界より北へ向い字船戸西、字宿前、字下宿を貫通し字上宿東辺に至り西北へ折通して該字と字宿後の間を西北へ通り北方関根村に至る。長さ13町36間、巾2間。

道敷支道沼田街道 本村字上宿の東辺にて清水越往還より東方へ支道し、字中反保、字宿後の間を東方通し字伊勢東中央貫き東方日輪寺村界に至る、長さ2町41間、巾1間4尺。

揭示場 本村の南口より12町北にあり。

社 村社諏訪神社社地東西10間、南北25間、面積283坪、本村より北の方、字宿後にあり御穂須実命を祭る。祭日は8月27日、社中杉木あり。

神明社 社地東西4間3尺、南北18間面積87坪、本村の北の方、字宿後にあり天照皇太神を祭る、古いわく住古伊勢三郎ここにあり勧請なりと、祭日9月9日、社中杉あり。

八幡神社 社地東西8間、南北14間、面積70坪、本村の西北方上宿の西隔にあり菅田別命を祭る、祭日9月19日。

物産 米、麦、芋、桑、養蚕製糸により1ヵ年取り高、米350石、麦230石、芋2,200貫、桑千駄、繭^{マユ}220石、製糸370貫、蚕種、大豆、小豆、大角豆、木綿、胡麻、菜種、ごぼう、粟、なす等に少しくよし、大豆50石、小豆15石、大角豆7石、木綿400貫、胡麻1石、菜種4石、大根5,200貫、人参50貫、ごぼう200貫、粟20石、なす1,200貫位。

製物 清酒350駄位。

民業 男、農桑を業とする者79戸、酒醸を業する者1戸。

女、養蚕製糸織縫を業とする者130人。

寄留 入居寄留4戸、士族、男1人女1人、平民、3戸、うち男8人、女3人、他出寄留平民、男3人、入寄留13人、うち士族2人、うち男1人、女1人、平民、11人、うち男8人女3人。

右之通相違無御座候己上

右村

立会人 高橋 儀平

副戸長 宮下 儀八

戸長 高橋弥平治

南橘村誌による荒牧村（1部補筆）

宗教

荒牧神社

祭神 大日靈命（オオヒルメミコト）、健御

名方命（タケミナカタミコト）、菅田別尊（ヨダワケミコト）、大雷命（オオイカヅチミコト）、素盞鳴命（スサノオミコト）、豊城入彦

命(トヨオキイリヒコミコト)、岡衆女命(サ
ナカタメミコト)、菅原道真公(スガハラミ
チザネコウ)、植山姫命(ハニヤマヒメミコ
ト)、火産靈神(ホムスミノカミ)

宮司 塩原行雄

代子 150戸

境内 368坪

祭日 4月15日 10月17日

由緒沿革その他

この神社は大日靈命(天照皇大神宮)を祭
神とする神明宮である。里伝によれば平安時
代の末、源義経は荒牧の地で伊勢三郎義盛と
主従になった。当社は以前には伊勢宮と称し
て伊勢氏の勧請した社であるという。

明治40年3月に許可を得て字上宿の村社諏
訪神社境内末社〔秋葉神社(火仗せの神)、
八坂神社(体力の神)、赤城神社(農工開運
の神)、八幡宮(勝利の神)、雷電神社(雷除
の神)、菅原神社(学問の神)、愛宕神社(火
防の神)、水神社(水の神)] 同所の無格社八
幡宮を本社神明宮に合併し、荒牧神社と改称
して今日に及んでいる。

寺



東荒牧に自性寺という寺があった。宗派は

曹洞宗、本尊は阿弥陀如来であった。

由緒沿革その他について、寺暦は不詳であ
るが口碑によると開山は江戸時代正保4年5
月11日に歿した権大僧都莊秀法師と伝えられ
ている。

中央の王峰知身尼首座より三世の間、尼僧
が続いたので一般には尼寺とも呼んでいた。
知身尼は越後国頸城郡高田村の曹洞宗林泉寺
と関係のあった人で田口の宝林寺とも寺縁が
あるといわれており、この寺は林泉寺の末寺
である。

自性寺には1軒の檀家もなく、荒牧に80軒
の信者を有する祈禱寺である。しかし昭和20
年3月に歿した孝雲尼首座の後継者がなかつ
たために廃絶して現在では一般の農家となっ
ている。当主は関口政男氏である。

天理教

天理教は奈良県山辺郡丹波市町庄屋敷(現
在は天理市三島)において、教祖中山美岐子
が月日の社として天啓により創めた教であ
る。

親神天理王命即ち国常位命、国狭土命、面
足命、月読命、雲読命、大昔辺命、伊井卅命、
惶根命、大食天命、井諾美命の10社を奉祀す
る。親神天理王命は人類創造のとき、人間の
陽気暮しをみて、神人共に楽しむとおぼしめ
されてこの世を創造されたので、人類は親神
のおぼしめし通りに、いながらにして陽気暮
らしの世界にたちかえるというのが信仰目標
である。

○天理教桃川分教会の沿革

明治23年10月、荒牧町26番地、関口与作が天

理教に入神して以来、布教して多数の信者を
得て講元となった。与作の歿後は五代町（旧
芳賀）の天理教勢多分教会において管理した。

大正14年4月、荒牧町24番地、高橋鶴次郎
住宅に関口文次郎が桃川宣教所を設置して担
任した。

昭和9年4月、関口文次郎が辞職し、後任
として飯野亀雄が担任した。

昭和9年5月、荒牧町より北代田町609番
地に認可を得て移転した。

昭和16年3月、天理教現第33条により「天
理教桃川分教会」と改称し今日に至っている。

文学上に表れる荒牧

源平盛衰記

「義経は上洲荒牧という所にて伊勢三郎義
盛と主従になる」とあって、承安4年に鞍馬
山を脱出した義経が金売吉次と共に奥洲へ向
う途中、走次とはぐれて上洲路にまぎれこみ
单身荒牧の里に一泊して、その住人伊勢三郎
義盛にあい、遂に主従の約を結んだといわれ
ている。

しかし諸説があって真偽のほどは判らな
いが、荒牧には「伊勢前」「伊勢屋敷」など
の小字があったし、義経の母、常盤御前の辞世
の碑及び短刀が保存されているという伝説も
ある。

不動明王

荒牧町の新田にある不動様は昔から五大明
王の一つとして、火の神として信仰されてい
る。はじめは火伏様として信仰されていたが
ある時代には大火事があった荒牧の村は火の海
と化してしまった。この時に角田、都丸の2
軒と火伏様だけが焼け残った。

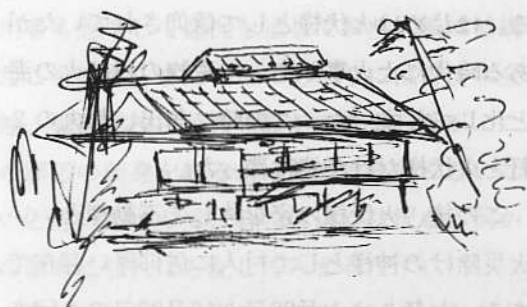
この後、火伏様の家を称して不動様といい
火災除けの神様として村人に信仰厚い存在で
ある。お祭りは1月28日と10月28日の2回あ
り、1月には福引きなどを行う。昔は村内に
火事があると、子供の掃除のし方が悪いとい
われ、毎週日曜日に掃除をしていた。

鎌倉大草紙

「文明9年7月の初め、古河の成氏公、数
千騎を引率して景春が後詰として結城、両那
須、両佐々木、横瀬御供にて滝という所へ御
出張の間、両上杉もかなわずして上洲白井へ
引退り陣を取、10月長尾景春、同六郎為景、
公方より加勢ありて荒牧という所へ陣取、道
灌、塩壳原（富士見村横室らしい）へ陣取、
悪所を前にあて待かけるに敵は引退きて帰陣
す」とある。

荒牧の施設

桃川小学校



日輪寺の学校

開校 明治6年12月、日輪寺に仮校舎を設けて桃川小学校と呼ぶ。

- 同 8年 小出小学校を合併
- 同 9年 小出小学校を分離
- 同 11年1月 上小出小学校を合併
- 同 12年1月 小出小学校を分離
- 同 16年4月 新校舎竣工
- 同 18年3月 横室、田口に分校設置
- 同 19年3月 高等科を廃止
- 同 20年7月 高等科を併置
- 同 21年4月 川原分教場を
- 同 22年4月 横室分校を分離、小出小学校を合併
- 同 36年4月 川原島分校が独立
- 同 39年5月 荒牧村に新校舎落成
- 同 39年4月 川原島小学校を合併
- 同 42年 大增築
- 昭和16年4月 国民学校と改称
- 同 19年12月 学徒勤労奉仕隊として高等2年男生徒は場内木工場へ、女生徒は丸大木工場及

び東和工業へ出勤する。

- 同 20年8月 終戦により勤労奉仕隊解除される。
- 同 22年4月 6・3制となり中学校を併設
- 同 23年9月 PTAを結成
- 同 42年3月 第1期新校舎建築3階9教室
- 同 43年4月 第2期
- 同 45年4月 第3期
- 同 52年11月 第4期
- 同 47年12月1日 開校100年記念式典
- 同 46年9月 体育館落成

南橋中学校

- 開校 昭和24年7月（完成は同年11月）
- 昭和25年4月 関東民事部より職業家庭科を中心とする中学教育の実験校として指定される。また11月3日「文化の日」に文部省より「優良施設校」として表彰された。
- 同26年 校内水道完成
- 同28年 柔道室及び工作室を再改造
- 同37年5月 体育館竣工
- 同48年2月 新校舎第1期落成
- 10月 〃 第2期落成
- 51年3月 〃 第3期落成
- 52年3月 〃 第4期落成

荒牧小学校

昭和47年10月19日 北部小学校（仮称）と

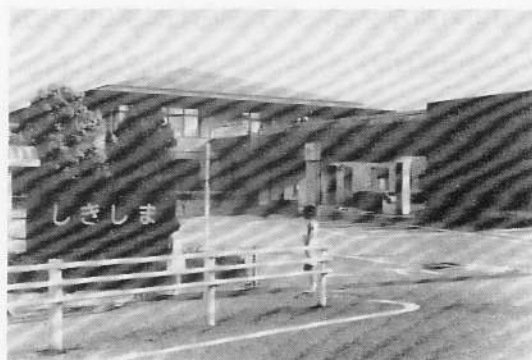
して起工
 昭和48年4月1日 荒牧小学校として創立
 同 〃 4月9日 開校式同 51年2月25日
 体育館竣工
 同 54年4月 プレハブ2教室設置

同 55年4月 同上
 同 56年4月 同上
 同 58年2月 6教室増築
 同 57年7月 開校10周年記念式典

老人福祉センター「しきしま」

昭和43年 前橋老人福祉センターとして開設

同 54年8月 全面改築により老人福祉センター「しきしま」と改称



老人福祉センター

ひまわり保育園

昭和43年新設、昭和56年、北部保育所新設に伴い閉園

老人ホーム寿楽園 昭和40年新設

東武バス北前橋営業所 同41年新設

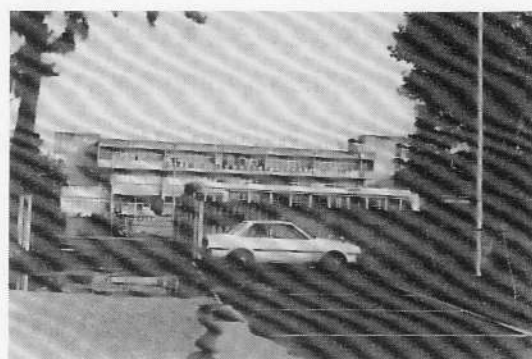
竹馬幼稚園 同41年新設（開園は同32年）

群馬教育センター 同42年

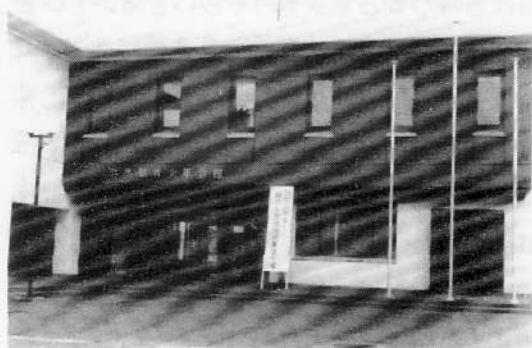
群馬大学教育学部 同44年

群馬朝鮮初級・中級学校 同47年

群馬県青少年会館 同57年



朝鮮学校



青少年会館